

「新国立の情報公開必要」 建築家や学識者ら集会



新国立競技場建設に向けて意見交換した建築家や有識者の集会＝30日、東京・永田町の参院議員会館で

市民団体、9万人署名提出

新国立競技場建設計画の白紙撤回を受け、作家の森まゆみさんらが共同代表を務める市民団体「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は三十日、各界の関係者による集会を国会内で開いた。建築家や学識者、近隣住民、与野党議員

らが参加し、新たな計画に向けて意見を述べたほか、計画が再び肥大化しないよう厳しくチェックしていくことを確認した。

原科幸彦・東工大名誉教授は「これまでの計画は不透明な意思決定が問題だった。（新たな計画では）情

報公開が絶対に必要」と主張。中村勉・東京建築士会長は、新国立競技場に限りず、公共事業を発注する自治体にコンペなどを扱う専門家がいないことを問題視した。今川憲英・東京電機大教授は、観客席の一部を仮設とし「撤去後（仮設席を）津波避難タワーに作り直す」と提案した。

代行は「無責任に（計画が）拡大しないようチェックしたい」と強調。維新、共産、生活、社民各党の議員らも財源確保やアスリートらの声を反映させるよう求めた。

一方、「手わたす会」は集会で、神宮外苑の美観を損なわない簡素な競技場を求める計九万三千九百二十四人の署名を、政府の担当者や国会議員に手渡した。

新国立競技場建設で取り壊される予定の都営霞ヶ丘アパート（東京都新宿区）に長年住んでいるという女性性は「白紙撤回で生きる望みを少し持てた。アパートを一棟でも一棟でも残して」と切実に訴えた。

自民党の小林史明衆院議員は「超党派で努力しながら納得できるものをつくりたい」、民主党の蓮舫代表

八万七千三百十人分はインターネットの署名サイト「チェンジ・ドット・オーグ」などを通じて集めた。遠藤利明五輪相に届けられる。残り六千六百十四人の署名は、国会請願のため街頭などで集めた。与野党議員を通じて衆参両院議長に届けられる。請願署名は会期末まで集める方針。

「JSC理事長
更迭盛り込む」
自民提言で見通し

自民党の河野太郎行政改革推進本部長は三十日、新国立競技場建設計画が白紙撤回された経緯をめぐり八月にまとめる党の提言に、事業主体となった日本スポーツ振興センター（JSC）の河野一郎理事長の更迭要求が盛り込まれるとの見通しを明らかにした。党本部で記者団に説明した。

2015.7.31
朝